

新品種の導入で労働負担の軽減

JA秋田おばこのきゅうり部会は、労働負担の軽減などに役立てながら、品質の向上に取り組み一助とし、所得の向上につなげるため、耐病性や果形安定性に優れた品種を新たに導入しました。

新たに導入し作付けした品種は、耐病性が高く、今までの管理技術を引き続き用い栽培することで果形の安定が図れるなど秀品率の向上が見込めます。



また、栽培が初めての人でも一定の品質を保ちやすい利点なども持ち合わせています。半促成きゅうりの作付け全体の約半数を移行しました。

5月14日に美郷町で行われた目ぞろえ会では、出荷規格の確認のほか、現在の販売状況報告や栽培管理の講習などを行いました。

JA秋田おばこは、園芸新品目の導入や新産地開発と高収益性の生産技術の普及に取り組み、園芸メガ団地を核とした園芸振興と園芸品目の生産拡大、園芸振興拠点センターを核とした集出荷作業の効率化に努め、複合経営による農業所得の向上に取り組んでいます。

